



園だより ～きづき～

2024年度5月号
キッドワールドサード保育園
園長 遠藤 靖子

新緑がまぶしい季節となりました。

この一月で、子どもたちは園での生活ペースを確立しつつあります。進級児は、「2歳さん」「1歳さん」と、ひとつずつ大きくなったことで呼び名も変わり、ちょっと「お兄ちゃん」「お姉ちゃん」気分を味わっているようです。0歳児さんは、年上の子から名前を呼ばれると、嬉しそうに笑顔を見せています。

この季節は、お散歩に出るのがとても気持ち良く、子どもたちも大好きです。

ゆっくりと歩きながら、交通ルールも知らせ、自分の身を守れる子どもへと導けるよう、職員間でしっかりと連携を取っていきたいと思います。



行事予定

10日(金)	身体計測
16日(木)	健康診断
18日(土)	お弁当日
28日(火)	歯科検診

お弁当日は

18日(土)です。

お弁当と食具を持たせてください。
おやつと飲み物は園で準備いたします。



歯科検診について

実施日時 5月28日(火) 9:30～

キッドワールドこども園に大分大学医学部歯科口腔外科から歯科医師が来園し、歯科検診を行います。そこに、サード保育園の園児も行き、診察をしていただきますので、出来る限り出席していただきますよう、ご協力をお願いいたします。



受診をした際には園へ連絡をお願いします

発熱や発疹、嘔吐などで受診をした際には、園に診断内容をお知らせ下さい。流行性ののであれば、園を通して保護者の皆様にお知らせすることが可能です。

また、お子さんの体調が気になる際は、まずはかかりつけ医か小児科医にご相談ください。

保育園は、集団生活の場です。みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。



メディアと子どもの生活

キッドワールドこども園特別指導顧問 山崎 富美子

生活発表会の後、I君を抱きかかえて、何度も何度も「たかいたかーい」をするI君のお父さんを見つけました。I君がいつも笑顔なのは、「これだな」と思えた瞬間でした。皆さんから見れば、子どもとの関りの一コマかもしれませんが、現代の社会において、必ずしもそうとは限りません。中には、「笑顔を失い、泣かない、視線が合わない」というような「サイレントベビー」とよばれる赤ちゃんもいるのです。



この原因としては、長時間の映像メディアとの接触による脳への影響が考えられています。長時間の映像メディアとの接触が言語能力の低下につながっているというのです。さらに、メディアの影響を受けた子どもたちは、レベルを逸脱した暴力や残酷ないじめをするようになると言われています。ですが、現時点では、このことに医学的根拠はありません。以前、園だより(令和5年度1月号)に掲載した「子どもの脳と発達と心の育ち」の記事を思い出しました。せっかくの機会ですので、ここで少し「メディアが子どもの育ちにどのように影響を与えているのか」ということについて考えてみたいと思います。

人間は、「光るもの、動くもの、音がするもの」が気になるという本能を持っています。テレビや、ゲームに接するときの脳は、笑顔、言葉、感性を司り、「考える、集中する」など人間として大切な前の脳(前頭葉)は、活動していません。見ることだけに特化した後ろの脳(後頭葉)が活動しているのです。これは前頭葉のない蛇や蛙と同じような状態で、ただ興奮しているだけなのです。



ゲームやテレビは、自分の脳から、アドレナリンとドーパミンを分泌させ、興奮と恍惚感を体験させます。しかし、ホルモン効果が切れると今度はイライラが起これ、麻薬中毒と同じようにゲームに舞い戻ります。暴力的な事件の背後には、「〇〇マン」「〇〇パンチ」のように「問題解決は、暴力で」という解決方法を使ってしまう現代人の傾向があるのです。つまり、アニメやゲームを繰り返し見ること、乗り越えがたい問題にぶつかった時に言葉によるコミュニケーションではなく暴力という手段を選択するという行動が形成されてしまっているのです。

そのような中で、現実世界と仮想世界の境界線が消え、命ある者が死んでも生き返ると思い、簡単に人の命を奪うという反社会的な事件もしばしば起こってしまうのです。このようなことを防ぐには、テレビを見る時間や、ゲームで遊ぶ時の目安を立てることが必要になります。ゲームをすると、前頭葉の活動が鈍くなるので、「嫌なことを考えなくてすむ」「気分転換できる」と言われています。しかし15分もすると「やめても前頭葉の活動は、再開しない」と脳科学者の川島隆太さんは、言っているのです。

「生まれてきてよかった。愛されている。生きていい。」という人間としての基本的な自尊心、自己肯定感は、「君が生まれてきて、パパとママはとっても幸せだよ。」という温かいまなざしの中で、笑顔と言葉のシャワーを浴びてこそ形成されます。人間の命の大切さは、身近な大人、家族とまなざしを交し合っこそ、会話や遊びの中で育っていくのです。



テレビを消して、スマホを隠して、子どもと一緒に遊びましょう。遊び方が分からないという方は、クラス担任に聞いてみましょう。きっといいヒントがもらえると思いますよ。



参考文献 『メディアにむしばまれる子どもたち』(教文館)